下請けからの脱却

私が社長就任しテーマに掲げたのが『下請けを脱却し、元請けとしての地位確立』。下請けと元請けの一番大きな違いは、工事日程や価格など様々なことを自分で決められるかどうか？この下請けはある意味ラクな立場だといえます。元請けとの関係を良くしておけばある程度の仕事はもらうことが出来ます。でも私は絶対に嫌でした。仕事する以上『青電社だからお願いしたい』と言われるような仕事をしたいですし、電気工事に関する技術には絶大な自信を持っています。自信を持っているからこそ、元請けとして直接指名をしてもらいたい。そもそも『仕事をもらう』という感覚は私自身持ちたくないし、社員にも絶対持ってほしくない。報酬を頂く以上プロフェッショナルとして仕事を完遂する、そんな元請けとしての地位確立のために会社のブランド力をあげていこうと決意しました。

電気工事業の地位を高める

そして元請けとしての地位がだんだんと出来ていく中で更に上を目指したいと思い始めました。更に上とは『メーカー』電気工事に関わる機器のメーカーです。メーカーになればあらゆること全てを自己責任で決めることが出来るのです。勿論様々なリスクはありますが、創業48年の歴史のなかで培った技術力や青電社スタッフの力を結集すれば十分に実現可能です。何故メーカーを目指すのか？というと、電気工事業の地位を高めていきたいという私の想いがあるからなのです。電気はインフラなので普段その有難みを感じることはなかなかありません。天変地異や事故が起きたときに初めて自分たちの仕事の重要性を感じることが出来る、そんな仕事です。人々の当たり前の生活を自分たちは守っているんだ！という矜持を社員にも感じさせたい。人から必要とされる仕事をしているんだ！という自信を社員達が持つことで社員達のモチベーションが上がり、結果としてこの仕事の重要度がより認知をされていく。そんな力になっていきたいのです。

未来は電気とともに

電気は最強！私はそう考えています。そもそも人は原始時代から『火』とともに生活をしてきました。火をおこして食べ物を作ったり、暖をとったりしてきた。人の日常生活と決して切り離すことが出来なかったのが火、その火が今の時代に電気に変わったのです。人は電気がないと生きていくことが出来ないですし、建物は電気が通って初めて使えるもの。電気は人にも建物にも魂を注入するものなのです。青電社の会社スローガンを『未来は電気とともに』としているのはこうした理由からです。どれほど世の中が変化をしたとしても、電気が無くなることはありませんし、電気の発展とともに私たちの未来があるのです。社員たちには自分たちがどれほど素晴らしい仕事をしているのかを感じてもらいたいですし、この部分に強烈なプライドを持ってほしい！そう考えています。

社員たちの大きな変化

39歳で社長になり今年48歳なので社長歴ももうすぐ10年になります。この約10年、様々な意味で先代の頃とはまったく別の会社に変わりました。勿論先代が築いてくれた基礎があったから出来たことなのですが、私は創業者のつもりでずっと仕事をしてきました。前例にないことも沢山しましたし、先代とはよく喧嘩にもなりましたが、この会社をもっと良くしたい！この一心で二代目創業といえる改革を続けてきました。そして一番変わったと私が感じるのが社員の意識です。具体的に言うと『うちの会社には未来がある、大きな可能性を感じる』と社員達が感じるようになったことです。何故そんなことを社員たちが感じるようになったかというと『仕事をする意味や意義』を私が彼らに伝え続けているからです。ただ単に電気工事をするのだったら他の会社でももしかしたら出来るかもしれません。でもお客さまが青電社に仕事を依頼する意味はどこにあるのか？仕事を通してどんなお役に立ちたいのか？を青電社の社員は明確に持っている。お客さまのお役に立つことが自分たちの存在価値に繋がり、ある意味使命感を持って仕事をしているからモチベーションが高く、一つ一つの作業にも違いが出て、意識にも大きな変化が生まれたのではないかと考えています。

夢を語ろう！

経営者にとって一番大切なことって『夢を語ること』なのではと思うのです。会社をこうしたい！という夢をとにかく語り続ける。毎年10月に方針発表会をするのですが、私は毎年必ず発表会の最後で夢を語ります。毎年毎年その夢はバージョンアップして、今の夢は年商100億円企業になりました。今の規模の10倍ですね。でも私は真剣です。とんでもない夢を見る人だけがとんでもないところに行けるのです。そして大切なことは『その夢を一緒にかなえたい！』と社員に思ってもらうこと。高校野球でいえば高校1年で入ったばかりの子が球拾いばっかりやっていても、なぜ辞めずに頑張れるかっていったら、甲子園出たいだとかレギュラーなりたいだとかいう自分の夢があるからですよね。こうした夢が会社にないからみんな辞めていくのですよ。社員が辞める理由は明るい未来がないから、ではどこの会社に行くのか？というと未来のある会社。当たり前ですよね。経営者の仕事は、明るい未来を描き、夢を語り続けること。その夢に共感した社員は絶対に離れることはありません。

生涯青春！

どんな会社にしたいか？と聞かれたら、社員みんなが自分の夢を明確に持っていてお互いに楽しそうに夢を語りあっている、そんな会社です。先ほども書いたのですが、青電社の青は先代の時には〝青春の青〟しかしいまは〝生涯青春の青〟です。この意味は、青電社に関わる人たちが一生涯青春時代のように夢を持ち、目をキラキラさせながら人生を過ごしている。人生の多くの時間を仕事に費やすわけですが、仕事のための仕事ではなくて、自分の人生をより豊かなものにするための仕事、私の仕事は社員の心のスイッチをONにし、社員みんなの夢を叶えるお手伝い。そんな風に生きていきたいですね。

株式会社青電社

本社所在地／愛知県名古屋市守山区町南3-1
会社設立／昭和47年2月25日
代 表 者／北原直樹
事業内容／電気・電気通信・消防設備工事の設計・施工・管理・水道工事設計施工(48期始動)